

企業理念を前面に打ち出し、各分野からパートナーを求め、幅広く事業を展開する。カルファケミカルは「細胞にやさしいものを提供する」という普遍性あるテーマを掲げ、賛同するパートナーと連携を取りながら国内・外で事業を展開する。自社の技術に過度に依存しない経営戦略が、成長の大きな力となっているようだ。

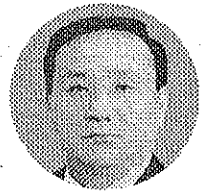
**安全な製品を開発**

設立は昭和五十四年。重機の輸出を手掛けていた小池恵二社長がオイルショックを機に、自然の生態系を破壊する身の回りの化学合成品に代わる安全な製品の開発を目指そうと思いついたのが出発。

「細胞にやさしいもの」。これが企業運営のテーマ。これに賛同して米国の生化学ベンチャーの研究者や国立大学の研究員、脳問題の民間の研究者などの外部ブレインを含め八人のチームができた。

**挑戦 成長への道**

当初六年間は研究開発に専念した。その間の出費は約四億五



小池社長

〈会社概要〉  
本社 神奈川県横浜市  
設立 昭和五十四年八月  
社長 小池 恵治氏  
資本金 三千万円  
売上高 八億円(平成元年)

事業内容 食品添加物、飼料、脱臭剤などの製造・販売  
事業拠点 厚木(神奈川県)、高雄(台湾)

**「細胞」軸に事業展開**

**カルファケミカル**

**海外とも連携し開発力**

ミネラルの農業用生育促進剤を「ばならない」(小池社長)。かまず、商品化した。続いて、においのもととなるガス分を分解するイオン化傾向の高い金属成

千万円。小池社長が経営する別会社の利益をそっくりつぎ込んだ。だが実際には「様々な分野の研究者が集まったおかげで、自社で抱える何十億円もかかる設備や技術を利用できた」と小池社長は笑う。

六十二年、牛骨から抽出したアミノ酸成分を利用した活性

分を配合した脱臭剤を売り出した。今年に入って、活性ミネラルを応用し、化粧水の発売にも手を付けた。平成元年二四期の売り上げは約八億円。年率二〇

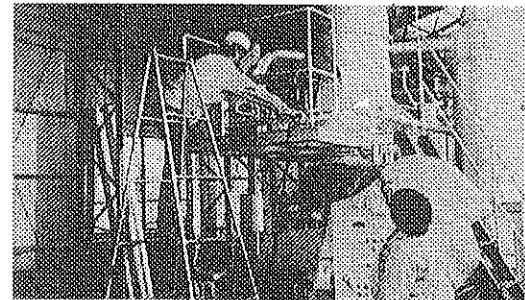
製造は外部に委託  
ベンチャーは身軽でなければい。設備投資が必要となる金

に手間やコストがかかることを知り、約半年で製造をやめた。この教訓から得た言葉だ。

現在、製造はほぼ外部に委託している。商品サイクルがますます短くなるなかで、資本力のない中小企業が大規模の設備投資をすることは危険負担が大き

が向上し、生産コストも安い台湾、韓国でパートナーを選び、カバーしている。韓国では現地の化学メーカー、大洋工業(ソウル)と合弁会社を設立、保鮮用のラップフィルムと脱臭剤を製造している。台湾では財閥グループの一つである永豊余(台北)と合弁で工場を建設中だ。

十月から台湾国内やオーストラリア、日本向けに新開発の豚や鶏用飼料添加剤を出荷する予定だ。



建設が進む高雄工場

だ「小池社長ははつきり」と言い切る。台湾には工場に隣接して研究所も設ける。台湾から米國に流出した優秀な研究者を米國のベンチャーの紹介で現地に呼び戻し、量子力学やバイオの研究拠点とする計画だ。すでに二十人近くを確保できるめどが立った。研究者が集めにくい日本の研究開発体制を補う拠点として期待している。

**台湾に研究所設置へ**

「土地の高い関東地区に工場をつくり、消費地である九州に鉄道で輸送するより、台湾から船で出荷する方がはるかにコストが安い。これから国内に必要とされるのはノウハウ部分の最大きく膨らみ始めている。

(赤星 和彦記者)